

**Jwima 通信**  
 Japan Writing Instruments  
 Manufacturers Association

日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

## 第6回 優良工場見学会実施

世界トップレベルの生産現場を視察しました

異分野の優れた工場や生産システムを視察する本工業会と日本鉛筆工業協同組合共催の「優良工場見学会」。ことしは10月17日(水)、約30名の参加者を集めて実施しました。

最初の視察先は、材料の厚みを測るマイクロメータやノギスなどの精密測定機器で世界をリードしている株式会社ミットヨ 宇都宮事業所。宇都宮の豊かな自然に囲まれたこの事業所は、主力のマイクロメータやノギスから、車の外形を三次元で測定する先端測定器の生産拠点です。その精密な加工技術、高度なメカトロ技術、先端的なコンピュータ制御技術などを視察し、昭和9年の創業から一貫して内製化を重んじてきた品質重視の精神力の強さ学びました。

次の視察先は、益子焼窯元・株式会社つかもと。全国に名を馳せている「益子焼」の産地益子町で140年余の伝統を守り通している最大の窯元です。工芸作品としての可能性を追求する一方、釜飯の容器として益子焼を普及させるなど、多角的な経営戦略を学びました。

株式会社ミットヨの宇都宮事業所  
 (栃木県宇都宮市下栗町2200)

㈱ミットヨは、マイクロメータを最初に国産化したメーカーで、現在、世界のグループ企業47社を有し、グループ売上1070億円という精密測定機器のトップメーカーです。宇都宮事業所ではノギス、ハイトゲージ、三次元測定機、リニアスケールやその他試験機の製造を行っています。



株式会社つかもと

(栃木県芳賀郡益子町益子3330-1)

140年の伝統を誇る益子最大の窯元「つかもと」。大型の登り窯や益子陶芸の製作工程が見学できます。施設内には工場のほか、美術館・ギャラリー・ショッピングプラザなども併設されています。益子焼の歴史と伝統、それをいまに伝承する職人の技に触れることができます。

# 19年度上期委員会活動報告 (平成19年6月～10月)

## ＜総務 関係＞

### 6.20 総務委員会 (19年度 第2回)

- ・優良工場見学会開催について
- ・会員研修会の開催について
- ・第4回ゴルフコンペ開催について
- ・年末の講演会・懇親会について

### 9.26 総務委員会 (19年度 第3回)

- ・各行事報告ならびに申し込み状況について
- ・19年度第3回理事会運営について

## ＜調査研究・広報 関係＞

### 10.26 調査研究・広報委員会(19年度第1回)

- ・会員ビジネス交流に関するアンケートについて
- ・特恵関税適用除外制度の活用に関するアンケートについて

## ＜流通 関係＞

### 6.27 お客様相談窓口連絡会 (19年度第2回)

- ・お客様対応事例情報交換
- ・会員研修会について

### 9.5 お客様相談窓口連絡会 (19年度第3回)

- ・お客様対応事例情報交換 など

### 10.3 お客様相談窓口連絡会(19年度第4回)

- ・お客様対応事例情報交換
- ・クレーン情報データベース作成について

## ＜技術国際 関係＞

### 6.26 ボールペン部会 (19年度第1回)

- ・ゲルインクボールペンISO提案  
ISO/TC10/WG18 開催報告について

### 7.4 業界基準運用検討小委員会 (19年度第1回)

- ・業界基準運用事例について
- ・業界基準運用検討小委員会の進め方について など

### 8.23 業界基準運用検討小委員会 (19年度第2回)

- ・マーク表示をしないという前提での業界基準の活用について など

### 9.27 マーキングペン部会 (19年度第1回)

- ・杓付ボールペンマーカーの業界基準の活用について
- ・運用検討小委員会報告、再JIS化についての検討 など

### 10.1 万年筆部会 (19年度 第1回)

- ・JIS S 6025 (万年筆及びそのペン先の改正検討について

### 10.5 技術国際委員会 (19年度 第1回)

- ・19年度上期各部会活動報告について
- ・国際規格提案事業委員会報告について

- ・ゲルインクボールペンISO提案経過報告

- ・EWIMA (欧州筆記具工業会) 技術委員会報告について など

## ＜JIS 改正 関係＞

### 8.31 シャープペンシル JIS 改正原案作成 分科会 (19年度 第1回)

- ・JIS S 6013 (シャープペンシル) 工業標準改正原案について

### 10.12 シャープペンシル JIS 改正原案作成委員会 (19年度 第1回)

- ・原案作成の経過報告、改正案の審議、今後の予定について など

## ＜全文協との共催 関係＞

### 5.25 知的財産部会テーマデー会議 (19年第1回)

- ・ISOT2007 模倣品対策セミナー 寸劇シナリオについての検討

### 6.1 知的財産部会テーマデー会議 (19年第2回)

- ・ISOT2007 模倣品対策セミナーに関するリード社との打合せ

### 6.19 知的財産部会テーマデー会議 (19年第3回)

- ・寸劇 リハーサル①

### 6.27 知的財産部会テーマデー会議 (19年第4回)

- ・寸劇 リハーサル②

### 7.4 合同知的財産部会 (19年 第1回)

- ・ISOT2007 における模倣品対策活動について

真正品・模倣品比較展示、模倣品実態調査、模倣品対策相談コーナー、模倣品対策セミナー など

### 8.7 知的財産部会テーマデー会議 (19年第5回)

- ・ISOT2007 模倣品対策セミナービデオ活用について

### 9.28 知的財産部会テーマデー会議 (19年第6回)

- ・知財教育用 DVD 制作、配布について など

## 理事会 開催状況 (平成19年6月～10月)

### 10.10 理事会 (19年度 第3回)

- ・各委員会上期活動状況報告
- ・ゲルインクボールペンISO提案経過報告
- ・19年度上期収支報告
- ・年末 理事会・講演会・懇親会の開催について
- ・2006年 中国・アメリカ貿易統計について
- ・「書育」の啓蒙活動に対する考え方について など

# ゲルインキボールペンISO提案 いよいよ大詰めを迎える！

昨年2月に ISO 事務局へ NWIP（新規業務提案）と WD（作業原案）を提出しスタートしたゲルインキボールペンの国際標準提案活動も、ここへ来ていよいよ大詰めを迎えることとなりました。

（下記の「ISO 規格制定までのプロセス」をもう一度参照ください。）

最初の新規プロジェクトへの投票（3ヶ月投票）で、Part 1：General use に対して韓国からコメントが付き、昨年度後半はその件でいろいろ韓国との調整を行いました。問題は解決したのですが、その調整結果を報告して CD 投票（3ヶ月投票）で承認を得なければならなくなり、ここでかなりのロスタイムを生じてしまいました。（Part 2：Documentary use の方は、



さて、ISO 提案の現在の状況ですが、今、Part 1が11月8日までCD投票にかかっています。そのため、9月下旬に開催されたEWIMA（欧州筆記具工業会）の技術委員会にJWIMAから3名（西本洋二氏、塩井恵子氏、金井基也氏）が出席し、各国委員に対しこれまでの経過報告とCD投票への協力要請を行ってきました。CD投票でそれが承認されれば、Part 2と共に次のステップであるDIS投票（5ヶ月投票）に進むこととなります。（10月末現在では、反対票もなく、特にややこしいコメントも付いていないようです。）

DIS投票の次には、更にFDIS投票（2ヶ月投票）というステップがあるのですが、これもDIS投票で特に反対やコメントが無ければ省略できることになっています。

最終、ISO規格の発行は、早くて来年（2008年）秋頃、遅ければ再来年（2009年）に入り込むだろうと思われます。いずれにせよこれから行われるDID投票が正念場で、反対票や問題となるコメントが出ないよう各投票国（Pメンバー）への働きかけが重要な活動となります。できれば会員各社の海外との人脈等も活用させていただいて早期実現を目指したいと思っております。皆様のご協力を是非お願い致します。



何もコメントが付かなかつたのでCD投票はパスすることができました。）

しかしながら、韓国からのコメントが出たおかげで、その問題解決を行うためのWG（Working Group）18が新設され、日本がそのコンビナー（議長）を担当することになったのです。しかもそのWG18は、ゲルインキボールペンだけにとどまらず、筆記具全般の技術的問題を解決するためのWGで、この案件以降も継続することが決まりました。筆記具のISOに関する技術的な問題の調整は日本が主導できる立場となったのです。

## ISO規格制定までのプロセス

- 新規プロジェクト案の承認 … 3ヶ月投票  
NWIP( New Work Item Proposal )  
WD( Working Draft )
- CD( Committee Draft )の承認 … 3ヶ月投票
- DIS(Draft International Standard )の承認 … 5ヶ月投票
- FDIS(Final DIS)の承認 … 2ヶ月投票
- ↓
- Publish(発行)

## 歴史ある街並みと親切な人々が印象に

(株)パイロットコーポレーション 金井基也

「Guten Tag」とドイツ語のあいさつで、国際標準提案事業委員会 西本洋二委員長のゲルインキボールペンISO規格提案に関する報告が始まりました。

場所は、ドイツ ミュンヘン空港内のアウディフォーラム。ロビーにはアウディのオレンジ色の新型車が展示されている会場です。

EWIMA 技術委員会にて、JWIMA よりこれまでのISO提案の進捗状況を報告し、欧州各国からCD投票、DIS投票へ賛成票を投じていただくお願いをして、各国の委員に了承いただきました。会議では報告が終わった後に拍手ではなく、テーブルを拳でコンコンと叩いて感謝の意を表すのがドイツの習慣のようです。テーブル上のガラス瓶、グラスから心地よい音が響きました。

会議終了後には、世界最大のビール祭り「オクトバーフェスト」での、1リットルのビールや、ミュンヘン新市庁舎のレストランでの「白ソーゼージ」などミュンヘン名物も味わうことができました。歴史ある街並みと親切な人々が印象に残る街でした。



## 寸劇でわかりやすく模倣品対策 ISOT2007にて (社)全日本文具協会とJWIMA知的財産部会が協同実施

ISOT2007の2日目の7月5日、全文協とJWIMAの知的財産部会が協同して、模倣品対策セミナー「企業を揺るがす模倣品問題」を開催しました。用意した80席は満席。この問題に寄せる業界の関心の高さを物語りました。

知的財産部会はこれまでもISOTの開催に合わせてセミナーや会場パトロール等の模倣品撲滅運動を実施してきましたが、今回のセミナーはこれまでと一味ちがう寸劇を採用し、「企業を揺るがす模倣品問題」をアピールしました。演じたのは劇団「青年座」のプロの役者さんの面々でした。

開催に先立ち、全文協の長谷川会長が挨拶に立ち、「模倣品の氾濫は我が国のメーカーが販売チャンスを失うばかりでなく、ブランドイメージにとっても痛手で、トラブルが絶えない。対策が急がれるところです」と知財活動の意義を強調しました。

続いてこの寸劇セミナーのコーディネーターで司会役の知財部会チームリーダー秋山守雄さんから解説者として協力くださった経済産業省の分部専門官、コスモ国際特許事務所の水野所長、JETROの水田課長代理を紹介。本編に入りました。

本編は、製造業の「日の丸株式会社」の新製品発表会から始まり、知財管理に甘い企業体質がたたって模倣品騒動に巻き込まれるというストーリー。ひとコマごとに法律的な解説が加えられ、模倣品対策への理解と対応の重要性をアピールしました。



## JWIMA 講演会・懇親会 12月5日(水) 【ご案内】

<講師に野球評論家・元東京オリオンズ投手 村田兆治さんを迎えて>



ことしの「JWIMA 講演会・懇親会」は12月5日(水)に決定しました。講演会は夕刻5時から、懇親会は6時20分からを予定しています。皆様のご参加を待ちしています。

今回の講演会講師は、国民的なピッチャー村田兆治さんです。村田さんは1949年、広島県生まれ。福山電波工業高校(現・近畿大学附属福山高等学校)から、東京オリオンズ(現・千葉ロッテマリーンズ)に入団。大きく振りかぶって真っ向から勝負する独特の「マサカリ投法」を生み出しました。ケガを克服し、40歳までマウンドに立ったその軌跡は金字塔です。

プロを引退した後の92年、生月島を皮切りに「豪腕・村田兆治、島に行く」をスタート。全国の有人離島をまわり、野球教室などを通して離島の人々との触れあい、島おこしにも貢献しています。ライフワークとして勝ち数と同じ215以上の島を回るのを自らの目標として、ますます意気盛んです。また、離島の人達の野球を支援する「マサカリ基金」を設立。最終的な目標は、全国離島少年野球大会を行うことと夢を大きく膨らませています。

## 第4回ゴルフコンペ実施 【報告】

JWIMA 主催の「第4回ゴルフコンペ」を9月29日(土)開催しました。コースは千葉県野田の「紫カントリークラブすみれコース」。4組16名のプレイヤーの参加をいただきました。優勝は昨年に引き続きテーボー販売(株)の石井 洋さん=写真右=、第2位は(株)守屋彫刻工芸の守屋貴彦さんでした。秋風さわやかな季節に、和気あいあいの会員交流が図れました。次回、みなさんのご参加をお待ちしています。

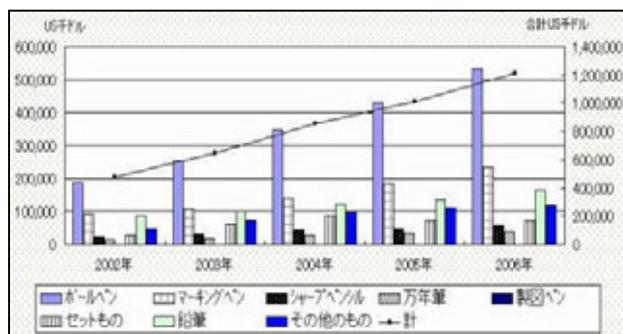


### 経済産業省からのお願い

経済産業省では、工業統計調査を平成19年12月31日現在で実施します。この調査は、製造業を営むすべての事業所を対象として、その活動実態を明らかにすることを目的として調査します。調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、大学や民間の研究機関等においても広く利用されているところです。皆様から提出していただく調査票については、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いいたします。

## JWIMA発行 中国貿易統計2006より

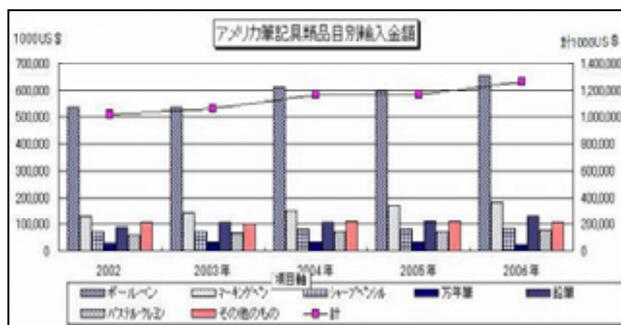
2006年も中国の主要文具8品目の輸出金額合計は前年に比べて20%増加した。それでも03年の36%増、04年の33%増に比べると中国の成長力はやや鈍ったかに見える。



ボールペンは24%増加した。計82億本を北米とEUを主要顧客に輸出した。単価は6.5セント、推定7.5円だ。マーキングペンは27%増加した。計48億本を同じく北米とEUを中心に輸出した。単価は4.9セント、推定5.6円だ。シャープペンシルは22%増加した。計8億本を同じく北米とEUを中心に輸出した。単価は7.1セント、推定8.2円だ。万年筆は11%増加した。計3億本を北米・EU・アジア向けに輸出した。単価は11セント、推定12.6円だ。鉛筆は20%増加した。計5700kgを北米・EU・アジアを中心に輸出した。1kg単価は2.8ドル、推定322円だ。中国製品の輸出先はすべての品種で北米・EUが中心だが、その他の第三国への輸出も見逃せない。中でもボールペンと鉛筆は「その他の国」への輸出が6割を占めている。(前年比はすべて金額)

## JWIMA発行 米国貿易統計2006より

2006年の米国の主要文具9品目の輸入金額合計は前年に比べて8.4%増加した。米国は01年の同時多発テロ事件があった年のみマイナスになったが、02年以降滑らかに輸入を回復させている。



ボールペンは9.8%増加した。6.5億ドルの輸入金額の内、日本製が26%、中国製が40%を占めた。マーキングペンは9%増加した。1.8億ドルの内、日本製が13%、中国製が48%、メキシコ製が17%を占めた。シャープペンシルは7.3%増加した。8600万ドルの内、日本製がトップで35%、中国製が31%、メキシコ製が13%を占めた。万年筆は約2割減少した。05年から急速な落ち込みを示している。2500万ドルの内、ドイツ製が38%、中国製が19%、フランス製が11%を占めた。鉛筆は18%増加した。1.3億ドルの内、中国製が34%、ブラジル製が16%、インドネシア製が12%を占めた。米国の輸入筆記具の三大品目は、一位＝ボールペン、二位＝マーキングペン、三位＝鉛筆であることが判る。(前年比はすべて金額)

統計資料をご希望者に提供しています。事務局まで、連絡ください。  
日本筆記具工業会 JWIMA 電話03-3891-6161